

I-1 学部・学科の教育目的・目標

学部・学科の教育 目的・目標

リハビリテーション学部では建学の精神であるキリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」に基づく深い人間理解の上に、高度な知識・技能を修得し、また多職種との連携・協働してその責務を果たし、国内外の新しい動向にも対応できるリハビリテーション分野の指導的人材となる理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を育成することを教育目的とします。

リハビリテーション学部の教育目的を達成するため、以下のように学部の教育目標を掲げます。

- (1) キリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」を理解し、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士としての高い倫理観と態度および豊かな教養を身につける。
- (2) 医学的基礎知識および理学療法学・作業療法学・言語聴覚学の基本的な知識・理論や技能を体系的に修得する。
- (3) 様々な立場や考えをもつ他者を尊重し、自らの考えや意見を適切に伝達・説明できるコミュニケーション力を習得する。
- (4) 課題解決に向けて、自身の専門分野と関連諸学の知見を統合し、探求する態度と生涯学修力を身につける。
- (5) 対象者の疾患と病態、障害特性に応じた基礎的な理学療法・作業療法・言語聴覚療法の治療・指導・援助の技術を修得する。
- (6) 保健医療福祉チームにおける一員として、それぞれの役割と責任を自覚し、多職種との連携・協働が実践できる態度と知識・技術を修得する。
- (7) 国際的な課題に関心を深め、国際的にも活躍できる国際感覚および語学力・表現力を身につける。

各学科の目的・目標は以下の通りです。

(1) 理学療法学科

理学療法学科では、人体の構造や機能、疾患と障害などの理解の上に、運動・電気刺激・温熱・冷却による治療や、障害を補うための杖や車いす・住宅改造に関する知識と技術を修得すること、また骨・筋・神経の疾患・障害に加え、呼吸・循環などの内部障害やスポーツ障害に対する高度な理学療法を修得することを目的とする。そのために、近年の医療技術の進歩と高度複雑化する社会の要求と期待に応えられるよう、自ら判断し行動する能力と学問的志向性を養うことを目標とする。

(2) 作業療法学科

作業療法学科では、「身体または精神に障害のある、またはそれが予測される人々に対し、作業活動を通じて心身機能の回復・維持を図り、主体的な生活の獲得のための治療・指導・援助を行う」という作業療法の定義を基盤とした内容を修得することを目的とする。この目的のために、心身機能や疾患・障害特性などの医学的知識、作業活動の特性と意味などの作業療法に必要な高度の専門的知識・技術を獲得し、科学的な思考力と、人の心理・社会的側面を視野に入れた幅広い実践能力を養うことを目標とする。

(3) 言語聴覚学科

言語聴覚療法は聴覚、言語、発声発語、嚥下等に障害のある人々に対して評価・訓練・指導・助言を行い、機能の獲得や回復・維持・向上を図り社会参加を支援することを目的としている。この目的に沿って言語聴覚療法・領域における高度専門職者としてふさわしい知識・技術を修得し、さらに、科学的、客観的な思考力と実践力のある専門職として専門分野ならびに関係領域の発展に貢献できる人材の養成を目標とする。

I-2 学部の学位授与の方針 (DP)

学部の教育課程の 編成・実施方針 (CP)

リハビリテーション学部では、建学の精神であるキリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた人間性を涵養することを土台に、地域の医療・福祉と生活上の困難を抱える人々の自立及び生活の質の向上を支援するために、専門機関や施設、他職種との連携、共同して、その責務を果たすことができる高度な知識・技術と実践力を兼ね備えたリハビリテーション専門職者を養成することとし、その教育目的を達成するため、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を定めています。

1. 建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
2. リハビリテーション専門分野の基本的な知識・理論・技能を体系的に修得している。
3. リハビリテーション専門職者に求められる様々な価値観や立場、意見を尊重した対人関係力と論理的表現力を身につけている。
4. 専門分野や関連諸学の学識を用いて、リハビリテーション上の課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
5. 専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。
6. リハビリテーション領域において自らの専門性と責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。
7. 地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。

I-3 学部の教育課程の編成・実施方針 (CP)

学部の教育課程の 編成・実施方針 (CP)

1. キリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」を理解し、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士としての高い倫理観と態度を養うため、建学の理念と精神の育成に関わる自校教育科目および人間形成に関わるキリスト教関連科目を置く（講義）。また大学での学びの基礎を築き、幅広い知識を広げ、物事を総合的に捉え的確に判断できる教養を養うため、大学教育導入科目と教養教育科目を置く。
2. 疾患や病態、心身機能の障害特性を理解し、適切な理学療法・作業療法・言語聴覚療法が実施できるようになるため、医学的基礎知識および各専門分野の基礎的な知識・理論や技能を体系的に理解し修得する専門基礎科目を置く。
3. 対象者を全人的に理解し、適切な対人関係を築くため、コミュニケーション力と実践力を養うキャリア教育科目および専門基礎科目を置く。
4. 設定された課題や自身の疑問に対し、自身の専門分野や関連諸学の学識を統合し、課題を探求する態度と研究方法論を身につけるため、専門科目、研究基礎科目および各分野の発展的専門科目を置く。
5. 対象者の疾患と病態、障害特性を適切に理解し、基礎的な理学療法・作業療法・言語聴覚療法の基礎的な検査・評価と治療・指導・援助技能を修得するため、専門科目および臨床教育科目を置く。
6. 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の役割と責任を自覚し、多職種との連携・協働が実践できる態度と知識・技能を修得するため、専門科目と専門職連携教育科目を置く。
7. 国際社会の課題に関心を深め、国際的にも活躍できる国際感覚および語学力・表現力を養うため、語学や海外研修および実習の科目を置く。

I-4 学部のカリキュラム

1. 教育課程

開設授業科目は教養基礎領域と専門領域の二つの領域からなり、1年次からそれぞれの科目を履修しながら4年間で教養基礎領域と専門領域が有機的に連携した一貫教育が行われます。それぞれの意味は次のとおりです。

(1) 教養基礎領域

「教養基礎領域」は、本学の建学の理念と人間形成に関わる科目、大学生として必要とされる幅広い見識に関わる科目からなり、知識を広げ大学での学びの基礎を築き、人間全般に関する深い教養と物事を総合的に捉え、的確に判断できる能力を養う科目で構成されています。

建学の精神：

建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」、本学の母体である聖隷の歴史や理念について学びます。また、聖書に示された人間観と隣人愛に根ざした行動力を学び、キリスト教を通して人格の形成をします。

自然・人間・社会：

健やかで健康的な精神と身体、人間とそれを取りまく社会や自然を多面的に学び、科学的なものを見方を身につけます。多様な人々とコミュニケーションを図れるように、高い倫理観と豊かな教養を養います。大学での学びに必要な学習技能を学ぶ科目、情報収集・分析の方法や、インターネットを活用して情報のやり取りをするためのコンピュータリテラシーや情報リテラシーを学ぶ科目、キャリア形成をする科目など、幅広く学び視野を広げ現代社会に必要な力を身につけます。

国際・地域：

国際社会に貢献するためにはコミュニケーションを図るための言語を修得することが望まれます。そのため複数の外国語科目が設定されています。外国語科目では聞く、話す、読む、書く力、そしてコミュニケーション力を高め、それと同時にそれらの言語を使用する国々の現状や文化を学びます。特に必要性の高い英語については、英語によるプレゼンテーションや討論ができるようになることを目指します。

自ら考え行動し、実際の現場で経験を積むことで実践力を養う科目を設定しています。国際的な支援活動や地域における社会貢献活動を実践します。

リハビリテーション専門職の専門性と位置づけ、隣接する他の職種との違いや特徴を理解し、他職種と連携する力を養う科目を配置しています。

「大学間交流授業」は、静岡県西部高等教育ネットワークによる共同授業で、「環境と人間」をテーマに9大学の先生のオムニバス講義を、他大学の学生や社会人と共に学ぶことができます。

(2) 専門領域

専門領域はリハビリテーションの実践に必要な知識と専門技術を修得するための科目が学年の進行に応じて学科毎に体系的に編成されています。

専門基礎科目と専門科目の二つの授業区分からなり、1年次から教養基礎領域と連携しながら、「主体的に変化に対応し、自らの将来の課題を探求し、その課題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的な判断のできる力」を養い、医療技術活動を実践していく力を養います。

専門基礎科目：

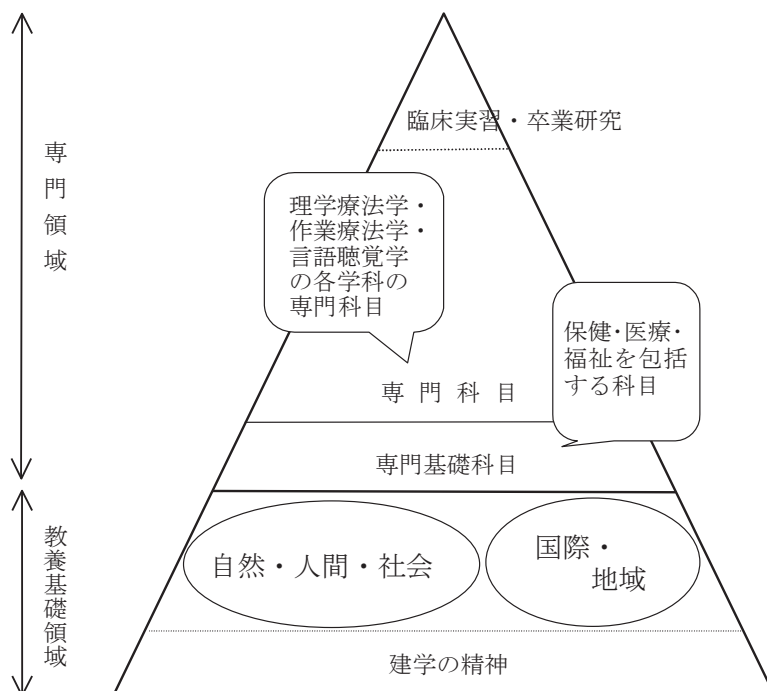
医療技術専門職として必要な医療・技術の基礎知識やリハビリテーションの概要を学ぶ科目です。主に1・2年次に配置されています。

専門科目：

各学科の専門知識・技術の修得とその体系化をはかるための科目が1年次から4年次まで段階的に配置されています。全ての学科で、基礎および見学実習、評価実習、総合臨床実習を行い、授業で学んだことを臨床の現場で実践し、専門分野の知識・技術を統合し体得していきます。また、4年次には研究能力と、最新の知識技術について幅広く学びます。

2. カリキュラム の構造

本学部のカリキュラムは、以下のような構造となっています。



Ⅱ-1 履修の方法(理学療法学科)

1. カリキュラム の特徴と構成

理学療法学科では、医療者としての倫理観、深い教養と高度の専門性を兼ね備えた、病院や施設、地域社会でリーダーとして貢献し得る理学療法士（いわゆる理学療法プロフェッショナル）を育成することを教育目標としています。

具体的な教育ビジョンは、以下です。

- ・理学療法の進歩に柔軟に対応できる理学療法士
- ・世界に情報を発信できる国際的な視野を持った理学療法士
- ・プロフェッショナルになる土台を持ち、リーダーとなりえる理学療法士
- ・他者に共感する人間味あふれる心を持った理学療法士

これらの教育目標とビジョンを具現化するために、卒業認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー：DP）と学部の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー：CP）、各年次の到達目標に基づいて、初年次教育、一般教養科目、医学・医学療法専門科目から成るカリキュラム構築を行い（図）、また教育手法では“創造性”と“自ら考え行動する力”を育むためのアクティブ・ラーニング（学生の能動的学習形態）を展開します。

2. 卒業認定に 必要な単位

理学療法学科の卒業認定に必要な単位は 125 単位以上（学則第 39 条第 2 項参照）と定められており、その内訳は次のとおりです（学則 別表 1-6、1-7 参照）。

(1) 教養基礎領域科目

教養基礎領域は、「建学の精神」・「自然・人間・社会」・「国際・地域」の 3 分野に分かれています。卒業までに、「建学の精神」および「自然・人間・社会」で 16 単位、「国際・地域」で 7 単位、以上に加えて教養基礎領域から 3 単位、合計 26 単位以上（必修 10 単位）の修得が必要です。

なお、この領域の大部分の科目は、「共通科目」となっており、看護学部、社会福祉学部の学生も履修が可能となっています。「共通科目」の中には春・秋 Semester 各々に開講される科目もありますが、学年進行により、開講されていても履修が困難な場合もあります。3 分野の詳細は次のとおりです。

○建学の精神、自然・人間・社会：16 単位以上（必修 6 単位）

・建学の精神

「聖隷の理念と歴史」（2 単位）、「キリスト教概論」（2 単位）は必修科目です。選択科目の「キリスト教人間論」「キリスト教の歴史」「キリスト教倫理」（各 1 単位）は、本学の建学の精神に関わる科目ですので、可能な限り履修することが望まれます。

・自然・人間・社会

「基礎演習」と「キャリアデザイン」（各 1 単位）は必修科目です。情報処理はこれからの時代に重要な科目です。可能な限り履修し、情報処理能力を養いましょう。そのほか、リハビリテーションの対象となる人間とそれを取りまく社会や自然を多面的に理解するための科目、運動や健康、社会の仕組み、法律、倫理など様々な領域があります。バランスよく選択し履修しましょう。

Ⅱ-1 履修の方法(理学療法学科)

○国際・地域：7単位以上（必修4単位）

英語科目である「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「入門リハビリテーション英語（英語Ⅲ）」（各1単位）は必修科目です。さらに英語力を高めたい人は「英語Ⅳ」「英語Ⅴ」も履修しましょう。外国語はそのほかに、「中国語」「外国語」があります。また「ブラジル文化と言語」もあります。

国際支援の実践力を高めるための科目が設定されています。「国際支援アクティブラーニングⅠ」は国内で、「国際支援アクティブラーニングⅡ」は国外での支援活動の実践をします。国内外での支援活動を実践する前に、「国際支援入門」を受講することを推奨します。

「地域ケア連携の基礎」（1単位）は必修科目であり、看護学部、社会福祉学部、リハビリテーション学部の学部間連携授業になります。専門基礎科目である「地域ケア連携演習」とともに、それぞれの専門性を尊重し、相互理解を深め、連携・協働する力を身につける重要な科目です。「地域実践アクティブラーニングⅠ」～「地域実践アクティブラーニングⅢ」は地域活動を実践する科目です。学内の学びのみならず地域に出て実際の現場から学べるメリットは大きいです。

「大学間交流授業」は、静岡県西部高等教育ネットワークによる共同授業で、「環境と人間」をテーマに9大学の先生のオムニバス講義を、他大学の学生や社会人と共に学ぶことができます。

(2) 専門領域科目

1) 専門基礎科目：31単位以上（必修31単位）

専門基礎科目は、卒業までに31単位以上(必修31単位)の修得が必要です。主に1、2年次に配当にされています。また、国際的な視野を広げるための選択科目を設けています。

2) 専門科目：68単位（必修65単位）

専門領域の科目の中の専門科目は68単位以上（必修65単位）の修得が必要です。履修モデルに示すように Semester毎に学習テーマが設けられており、1年次から4年次まで段階的に履修していきます。

Ⅱ-1 履修の方法(理学療法学科)

3. 履修の要点

以下に履修方法の概要を示しますが、詳細は学年始めの履修ガイダンスにおいて説明します。当日は、履修についての注意・説明があり、関連資料等が配布されますので、必ず出席してください。履修について不明な点がある場合や迷った場合には、教務事務センター、アドバイザーなどに相談にいきましょう。

(1) 履修科目の学年別進行

履修は、原則として、理学療法学科の教育課程に示した進度にそって行います。

(2) 選択科目の履修

選択科目については、可能な範囲内で学年を越えて履修することができます。教養基礎領域科目の一部は他学部との共通科目となっています。しかし、学年進行により、開講されていても受講が困難な科目もあります。履修時期については、教育課程に示した進度を参考にしてください。

(3) 履修登録単位数の上限について

学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、学生が一年間に履修科目として登録することができる単位数は下記の通りです。

各セメスター：25 単位

4. 臨床実習を履修するための前提科目

リハビリテーションの現場での実習を2年次から実施します。講義、学内実習で学んだ知識・技術と実践とを統合し、医療技術専門職としての資質を磨くことを目的としています。

また、授業で学んだ内容を時期的に並行して実習を行えるような授業構成となっています。

3年次からの臨床実習の履修にあたっては、それぞれの実習科目に関連のある授業科目の単位を修得していることが前提となります。

臨床実習科目名	臨床実習前提科目
臨床理学療法評価実習Ⅰ	専門基礎科目及び専門科目の必修科目（1・2年次開講分）
臨床理学療法評価実習Ⅱ	専門基礎科目及び専門科目の必修科目（1・2年次開講分） 及び理学療法評価演習Ⅰ
臨床理学療法総合実習Ⅰ	専門基礎科目及び専門科目の必修科目（1・2・3年次開講分）
臨床理学療法総合実習Ⅱ	

II-2 教育課程・カリキュラムマップ・履修モデル(理学療法学科)

リハビリテーション学部理学療法学科 教育課程

区分	理学療法学科 授業科目	共通 科目	単位		時間 数	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な 単位数
			必修	選択		1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ	
建学の精神	聖隷の理念と歴史	★	2		30	○	○							16 単位
	キリスト教概論	★	2		30	○	○							
	キリスト教人間論	★		1	15	○	○							
	キリスト教の歴史	★		1	15			○	○					
	キリスト教倫理	★		1	15					○	○			
自然・人間・社会	哲学	★		2	30	○								26 単位
	文学	★		2	30	○	○							
	心理学	★		2	30	○	○							
	倫理学	★		2	30		○							
	女性学	★		2	30	○								
	生活福祉文化論	★		2	30	○	○							
	レクリエーション概論	★		2	30	○	○							
	音楽	★		1	30	○	○							
	健康スポーツ論	★		1	15	○	○							
	健康スポーツ実践	★		1	30	○	○							
	スポーツ I	★		1	30	○	○							
	スポーツ II	★		1	30	○	○							
	法学	★		2	30	○	○							
	日本国憲法	★		2	30		○							
	経済学	★		2	30		○							
	教育学	★		2	30	○	○							
	社会学	★		2	30	○	○							
	現代コミュニティ論	★		2	30	○	○							
	生物学	★		2	30	○								
	基礎化学			1	15	○								
	基礎物理学			1	15	○								
	統計学・疫学概論			2	30	○								
	社会福祉原論			2	30		○							
基礎演習			1	30	○									
日本語表現法	★		2	30	○	○								
情報処理A	★		1	30	○	○								
情報処理B	★		1	30	○	○								
キャリアデザイン	★		1	15					○					
国際・地域	英語 I	★		1	30	○								7 単位
	英語 II	★		1	30		○							
	入門リハビリテーション英語(英語Ⅲ)			1	30			○						
	英語IV	★		1	30			○						
	英語V	★		1	30				○					
	中国語	★		1	30			○	○					
	外国語	★		1	30	○	○	○	○	○	○	○	○	
	海外研修	★		1	30	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ブラジル文化と言語	★		2	30	○	○							
	現代の国際社会	★		2	30	○	○							
	文化人類学	★		2	30	○								
	国際支援入門	★		1	15	○								
	国際支援アクティブラーニング I	★		1	30			○						
	国際支援アクティブラーニング II	★		1	30			○						
	地域ケア連携の基礎	★	1		15	○								
	地域実践アクティブラーニング I	★		1	30			○						
	地域実践アクティブラーニング II	★		1	30				○					
	地域実践アクティブラーニング III	★		1	30					○				
	ボランティア論	★		1	15	○								
	ボランティア演習	★		1	30			○		○		○		
大学間交流授業	★		2	30			○		○		○			

区分	理学療法学科 授業科目	共通 科目	単位		時間 数	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な 単位数
			必修	選択		1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ	
専 門 基 礎 科 目	解剖学		2		30	○								31 単位
	運動器解剖学		2		30	○								
	神経解剖学		2		30		○							
	人体機能学(動物性機能)		2		30	○								
	人体機能学(植物性機能)		1		30		○							
	運動学Ⅰ		1		30		○							
	運動学Ⅱ		1		30			○						
	運動学演習		1		30			○						
	人間発達学		1		30		○							
	病理学概論Ⅰ		1		15		○							
	病理学概論Ⅱ		1		15		○							
	臨床心理学		1		30			○						
	臨床医学・医療学概論		1		15	○								
	内科系医療学		2		30			○						
	整形外科系医療学		2		30			○						
	神経内科系医療学		2		30			○						
	精神医学系医療学Ⅰ		1		15			○						
	小児科系医療学Ⅰ		1		15			○						
	小児科系医療学Ⅱ		1		15			○						
	リハビリテーション概論		1		15	○								
	リハビリテーション医療・医学Ⅰ		1		15			○						
	リハビリテーション医療・医学Ⅱ		1		15			○						
	保健医療福祉倫理学		1		15			○						
	リハビリテーション職種間連携の基礎		1		15	○								
	地域ケア連携演習	★		1	30							○		
	国際コミュニケーション演習			1	30					○				
国際リハビリテーション研修			1	30				○						
専 門 領 域	理学療法概論		2		30	○							99 単位	
	基礎理学療法学		2		30			○						
	理学療法研究の理論		2		30					○				
	理学療法研究の実践		4		120							○		
	理学療法診断学概論		2		30		○							
	理学療法診断技術学		2		30			○						
	神経系理学療法評価学		1		30			○						
	内部障害系理学療法評価学		1		30			○						
	運動器系理学療法評価学		1		30			○						
	理学療法検査測定演習		1		30			○						
	理学療法評価演習Ⅰ		1		30				○					
	理学療法評価演習Ⅱ		1		30					○				
	基礎理学療法治療学		2		30			○						
	小児理学療法学		1		30			○						
	神経系理学療法治療学		2		60				○					
	内部障害系理学療法治療学		2		60				○					
	運動器系理学療法治療学		2		60				○					
	物理療法学の理論		2		30		○							
	物理療法学の実践		1		30			○						
	日常生活活動学の理論		2		30			○						
	日常生活活動学の実践		1		30				○					
	機能代償機器学の理論		2		30				○					
	機能代償機器学の実践		1		30					○				
	理学療法治療演習		1		30						○			
	理学療法学総合演習		1		30							○		
	臨床理学療法見学実習		1		45	○								
	地域理学療法学の理論		2		30				○					
	地域理学療法学の実践		1		30					○				
	臨床理学療法検査測定実習		1		45			○						
	臨床理学療法生活支援実習		1		45			○						
	臨床理学療法評価実習Ⅰ		3		135				○					
	臨床理学療法評価実習Ⅱ		4		180					○				
	臨床理学療法総合実習Ⅰ		6		270						○			
	臨床理学療法総合実習Ⅱ		6		270							○		
	公衆衛生学		1		15			○						
	国際社会福祉論		2		30			○						
摂食嚥下障害学概論		2		30			○							
薬理・薬剤		2		30			○							
カウンセリング		1		30			○							
リハビリテーション栄養学		1		15			○							
国際リハビリテーション援助論		1		30		○								
国際理学療法実習		2		90					○		○			
理学療法教育学		1		15							○			
発展的理学療法学		1		15							○			

履修モデル(理学療法学科)

年次	1年次	2年次	3年次	4年次
学習テーマ	第1セメスター 大学での学び(初年次教育)、自校教育、教養教育、医療専門職業人への導入	第3セメスター 臨床医療学と理学療法	第5セメスター 理学療法の治療(基礎理論と治療技術)	第7セメスター 臨床実践、理学療法研究
臨床実習	臨床理学療法見学実習	臨床理学療法検査測定実習	臨床理学療法評価実習I	臨床理学療法総合実習I 臨床理学療法総合実習II
専門科目(講義・学内実習)	理学療法概論	基礎理学療法学 理学療法診断技術学 物理療法の理論	神経系理学療法治療学 内部障害系理学療法治療学 運動器系理学療法治療学 日常生活活動学の実践 機能代償機器学の理論 地域理学療法学の理論	機能代償機器学の実践 地域理学療法学の実践 理学療法研究の理論
選択科目	国際リハビリテーション援助論	摂食嚥下障害学概論	公衆衛生学 国際社会福祉論 薬理・薬劑 カウンセリング リハビリテーション栄養学	国際理学療法実習
専門基礎科目	解剖学(動物性機能) 人体機能学 運動学I 人間発達学 病理学概論I・II	運動学II 運動学演習 臨床心理学 内科系医療学 整形外科系医療学 神経内科系医療学 小児科系医療学I・II リハビリテーション医療・医学I・II	精神医学系医療学I 保健医療福祉倫理学	理学療法教育学 発展的理学療法学
選択科目	聖隷の理念と歴史 キリスト教概論 キリスト教の歴史 キリスト教倫理	国際リハビリテーション研修	国際コミュニケーション演習	地域ケア連携演習

専門領域

教養基礎領域

一 建学の精神一

聖隷の理念と歴史
キリスト教概論
キリスト教の歴史
キリスト教倫理

一 自然・人間・社会一

哲学 文学 心理学 倫理学 女性学 生活福祉文化論 レクリエーション概論 音楽
健康スポーツ論 健康スポーツ実践 スポーツI・II 法学 日本国憲法 経済学 教育学
社会学 現代コミュニケーション論 生物化学 基礎物理学 統計学・疫学概論
社会福祉原論 基礎演習 日本語表現法 情報処理A・B キリリ'サ'ル

一 国際・地域一

英語I・II・入門/ハビ'リ'テーション英語(英語III)・IV・V 中国語 外国語 外国語
海外研修 ブラジル文化と言語 現代の国際社会 文化人類学 国際支援入門
国際支援アクティブラーニングI・II 地域ケア連携の基礎
地域実践アクティブラーニングI~III ホラ'リ'ティ'論 ホラ'リ'ティ'演習
大学間交流授業

Ⅲ-1 履修の方法(作業療法学科)

1. カリキュラムの特徴と構成

作業療法学科では、将来、医療・保健・福祉・教育の各分野で、広く人々の健康増進に寄与できるリハビリテーション専門職者として、豊かな人間性を備えた作業療法士を育成することを教育目標としています。具体的な教育ビジョンは、以下の通りです。

- ・臨床：作業活動を治療・援助に用いる専門職として、対象者のニーズを適確に掴み、その人に応じた主体的な生活の獲得を援助できる作業療法士の育成
- ・教育：問題基盤型学習 (problem-based learning: PBL) を教育方法の基盤に据え、自ら課題を発見し、臨床的推論を経て答えを導くことのできる作業療法士の育成
- ・研究：作業療法の基礎研究のみならず、「臨床の問題」を解決し、実践レベルにまで応用できる作業療法士の育成

上記の教育目標とビジョンを具現化するために、卒業認定・学位授与に関する方針 (ディプロマ・ポリシー：DP) と各年次の到達目標 (カリキュラム・ポリシー：CP) に基づいて、初年次教育、教養基礎科目、基礎医学、作業療法専門科目から成るカリキュラムを実施します (図)。これらの学術的基盤に基づく系統的な教育を経て、専門職業人としての臨床実践の基礎を築き、資格取得後も継続的に最新技術を獲得し実践出来る作業療法士を養います。

2. 卒業認定に必要な単位

作業療法学科の卒業認定に必要な単位は 125 単位以上 (学則第 39 条第 2 項参照) と定められており、その内訳は次のとおりです (学則 別表 1-6、1-8 参照)。

(1) 教養基礎領域科目

教養基礎領域は、「建学の精神」・「自然・人間・社会」・「国際・地域」の 3 分野に分かれています。

卒業までに、「建学の精神」および「自然・人間・社会」で 16 単位、「国際・地域」で 7 単位、以上に加えて教養基礎領域から 3 単位、合計 26 単位以上 (必修 10 単位) の修得が必要です。

なお、この領域の大部分の科目は、「共通科目」となっており、看護学部、社会福祉学部の学生も履修が可能となっています。「共通科目」の中には春・秋semester各々に開講される科目もありますが、学年進行により、開講されていても履修が困難な場合もあります。3 分野の詳細は次のとおりです。

○建学の精神、自然・人間・社会：16 単位以上 (必修 6 単位)

・建学の精神

「聖隷の理念と歴史」(2 単位)、「キリスト教概論」(2 単位) は必修科目です。選択科目の「キリスト教人間論」「キリスト教の歴史」「キリスト教倫理」(各 1 単位) は、本学の建学の精神に関わる科目ですので、可能な限り履修することが望まれます。

・自然・人間・社会

「基礎演習」と「キャリアデザイン」(各 1 単位) は必修科目です。情報処理はこれからの時代に重要な科目です。可能な限り履修し、情報処理能力を養いましょう。そのほか、リハビリテーションの対象となる人間とそれを取りまく社会や自然を多面的に理解するための科目、運動や健康、社会の仕組み、法律、倫理など様々な領域があります。バランスよく選択し履修しましょう。

また、「統計学・疫学概論」(2 単位)、「社会福祉原論」(2 単位) は必修ではありませんが、単位修得が望ましい科目です。

Ⅲ-1 履修の方法(作業療法学科)

○国際・地域：7単位以上（必修4単位）

英語科目である「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「入門リハビリテーション英語（英語Ⅲ）」（各1単位）は必修科目です。さらに英語力を高めたい人は「英語Ⅳ」「英語Ⅴ」も履修しましょう。外国語はそのほかに、「中国語」「外国語」があります。また「ブラジル文化と言語」もあります。

国際支援の実践力を高めるための科目が設定されています。「国際支援アクティブラーニングⅠ」は国内で、「国際支援アクティブラーニングⅡ」は国外での支援活動の実践をします。国内外での支援活動を実践する前に、「国際支援入門」を受講することを推奨します。

「地域ケア連携の基礎」（1単位）は必修科目であり、看護学部、社会福祉学部、リハビリテーション学部の学部間連携授業になります。専門基礎科目である「地域ケア連携演習」とともに、それぞれの専門性を尊重し、相互理解を深め、連携・協働する力を身につける重要な科目です。

「地域実践アクティブラーニングⅠ」～「地域実践アクティブラーニングⅢ」は地域活動を実践する科目です。学内の学びのみならず地域に出て実際の現場から学べるメリットは大きいです。

「大学間交流授業」は、静岡県西部高等教育ネットワークによる共同授業で、「環境と人間」をテーマに9大学の先生のオムニバス講義を、他大学の学生や社会人と共に学ぶことができます。

(2) 専門領域科目

1) 専門基礎科目：32単位以上（必修32単位）

専門基礎科目は、卒業までに32単位以上（必修32単位）の修得が必要です。科目は、主に1、2年次に配当されています。また、国際的な視野を広げるための選択科目を設けています。

2) 専門科目：67単位（必修62単位）

専門領域の科目の中の専門科目は67単位以上（必修62単位）の修得が必要です。

また、「老年期作業療法学演習」「精神領域作業療法学演習」「発達領域作業療法学演習」から、2単位以上修得する必要があります。履修モデルに示すように Semester毎に学習テーマが設けられており、1年次から4年次まで段階的に履修していきます。また、医療技術専門職として視野を広げるための科目を3単位以上選択して履修します。これらは看護学部、社会福祉学部と連携している科目も多く、他職種を理解することに役立ちます。

3. PBLテュートリアル教育

作業療法学科では専門科目の中の必修科目においてPBLテュートリアル方式による教育を行います。

PBLテュートリアルとは：

PBLは Problem-based Learning の略称で、知識付与型ではなく能動的かつ問題解決型学習を行うための教育方法です。学生を少人数のグループに分け、グループ毎にテューター（教員）の方向付けの下に、提示された課題を解決しつつ作業療法学全般を学びます。PBLテュートリアルは小グループでのディスカッション、自学自習、大グループでの講義、スキルラボ、発表等によって構成されます。

PBLテュートリアル方式による教育の詳細は別途説明します。

Ⅲ-1 履修の方法(作業療法学科)

4. 履修の要点

以下に履修方法の概要を示しますが、詳細は学年始めの履修ガイダンスにおいて説明します。当日は、履修についての注意・説明があり、関連資料等が配布されますので、必ず出席してください。履修について不明な点がある場合や迷った場合には、教務事務センター、アドバイザーなどに相談にいきましょう。

(1) 履修科目の学年別進行

履修は、原則として、作業療法学科の教育課程に示した進度に沿って行います。

(2) 選択科目の履修

選択科目については、可能な範囲内で学年を越えて履修することができます。教養基礎領域科目の一部は他学部との共通科目となっています。しかし、学年進行により、開講されていても受講が困難な科目もあります。履修時期については、教育課程に示した進度を参考にしてください。

(3) 履修登録単位数の上限について

学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、学生が一年間に履修科目として登録することができる単位数は下記の通りです。

各セメスター：25 単位

5. 臨床実習を履修するための前提科目

リハビリテーションの現場での実習を3年次後半から実施します。講義、学内実習で学んだ知識・技術と実践とを統合し、医療技術専門職としての資質を磨くことを目的としています。

臨床実習の履修にあたっては、それぞれの実習科目に関連のある授業科目の単位を修得していることが前提となります。

臨床実習科目名	臨床実習前提科目
臨床作業療法評価実習	専門基礎科目及び専門科目の必修科目（臨床作業療法総合実習Ⅰ・Ⅱ、臨床マネジメント論、卒業研究を除く）
臨床作業療法総合実習Ⅰ	専門基礎科目及び専門科目の必修科目（臨床作業療法評価実習、臨床作業療法総合実習Ⅱ、臨床マネジメント論、卒業研究を除く）
臨床作業療法総合実習Ⅱ	専門基礎科目及び専門科目の必修科目（臨床作業療法評価実習、臨床作業療法総合実習Ⅰ、臨床マネジメント論、卒業研究を除く）

6. 卒業研究、臨床マネジメント論の履修のために必要な単位

「卒業研究」および「臨床マネジメント論」を履修するためには、原則として、専門領域の必修科目および専門領域の選択科目3単位以上（8セメに発展的作業療法学の単位を取得する場合は2単位以上）を取得済であること。ただし、「臨床作業療法総合実習Ⅰ」および「臨床作業療法総合実習Ⅱ」は当該年度内に取得見込であることが前提条件となります。

Ⅲ-2 教育課程・カリキュラムマップ・履修モデル(作業療法学科)

リハビリテーション学部作業療法学科 教育課程

区分	作業療法学科 授業科目	共通 科目	単位		時間 数	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な 単位数
			必修	選択		1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ	
建学の精神	聖隷の理念と歴史	★	2		30	○	○							16 単位
	キリスト教概論	★	2		30	○	○							
	キリスト教人間論	★		1	15	○	○							
	キリスト教の歴史	★		1	15			○	○					
	キリスト教倫理	★		1	15					○	○			
自然・人間・社会	哲学	★		2	30	○								26 単位
	文学	★		2	30	○	○							
	心理学	★		2	30	○	○							
	倫理学	★		2	30		○							
	女性学	★		2	30	○								
	生活福祉文化論	★		2	30	○	○							
	レクリエーション概論	★		2	30	○	○							
	音楽	★		1	30	○	○							
	健康スポーツ論	★		1	15	○	○							
	健康スポーツ実践	★		1	30	○	○							
	スポーツ I	★		1	30	○	○							
	スポーツ II	★		1	30	○	○							
	法学	★		2	30	○	○							
	日本国憲法	★		2	30		○							
	経済学	★		2	30		○							
	教育学	★		2	30	○	○							
	社会学	★		2	30	○	○							
	現代コミュニティ論	★		2	30	○	○							
	生物学	★		2	30	○								
	基礎化学			1	15	○								
	基礎物理学			1	15	○								
	統計学・疫学概論			2	30	○								
	社会福祉原論			2	30		○							
	基礎演習			1	30	○								
	日本語表現法	★		2	30	○	○							
	情報処理A	★		1	30	○	○							
情報処理B	★		1	30	○	○								
キャリアデザイン	★		1	15					○					
国際・地域	英語 I	★		1	30	○								7 単位
	英語 II	★		1	30		○							
	入門リハビリテーション英語(英語Ⅲ)			1	30			○						
	英語IV	★		1	30			○						
	英語V	★		1	30				○					
	中国語	★		1	30			○	○					
	外国語	★		1	30	○	○	○	○	○	○	○	○	
	海外研修	★		1	30	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ブラジル文化と言語	★		2	30	○	○							
	現代の国際社会	★		2	30	○	○							
	文化人類学	★		2	30	○								
	国際支援入門	★		1	15	○								
	国際支援アクティブラーニング I	★		1	30			○						
	国際支援アクティブラーニング II	★		1	30			○						
	地域ケア連携の基礎	★	1		15	○								
	地域実践アクティブラーニング I	★		1	30			○						
	地域実践アクティブラーニング II	★		1	30				○					
	地域実践アクティブラーニング III	★		1	30					○				
	ボランティア論	★		1	15	○								
	ボランティア演習	★		1	30			○		○		○		
大学間交流授業	★		2	30			○	○		○	○			

区分	作業療法学科 授業科目	共通 科目	単位		時間 数	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な 単位数
			必修	選択		1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ	
専門基礎科目	解剖学		2		30	○								32 単位
	運動器解剖学		2		30	○								
	神経解剖学		2		30		○							
	人体機能学(動物性機能)		2		30	○								
	人体機能学(植物性機能)		1		30		○							
	運動学Ⅰ		1		30		○							
	運動学Ⅱ		1		30			○						
	運動学演習		1		30			○						
	人間発達学		1		30		○							
	病理学概論Ⅰ		1		15		○							
	病理学概論Ⅱ		1		15		○							
	臨床心理学		1		30			○						
	臨床医学・医療学概論		1		15	○								
	内科系医療学		2		30			○						
	整形外科系医療学		2		30			○						
	神経内科系医療学		2		30			○						
	精神医学系医療学Ⅰ		1		15				○					
	精神医学系医療学Ⅱ		1		15				○					
	小児科系医療学Ⅰ		1		15				○					
	小児科系医療学Ⅱ		1		15				○					
	リハビリテーション概論		1		15	○								
	リハビリテーション医療・医学Ⅰ		1		15			○						
	リハビリテーション医療・医学Ⅱ		1		15			○						
保健医療福祉倫理学		1		15				○						
リハビリテーション職種間連携の基礎		1		15	○									
地域ケア連携演習	★		1		30							○		
国際コミュニケーション演習			1		30					○				
国際リハビリテーション研修			1		30			○						
専門領域	作業療法概論		2		30	○								99 単位
	作業科学と作業療法		1		30		○							
	研究法入門		1		30					○				
	作業療法評価学総論		1		15		○							
	作業療法評価学演習		2		60			○						
	身体領域作業療法評価学		2		60				○					
	老年期作業療法評価学		1		30					○				
	基礎作業学		2		60		○							
	作業技術学		1		30			○						
	神経系作業療法学		2		60				○					
	運動器系作業療法学		2		60				○					
	日常生活活動技術学		1		30					○				
	日常生活活動技術学実習		1		45					○				
	高次脳機能障害学		2		60			○						
	精神領域作業療法学の基礎		2		60				○					
	精神領域作業療法学の応用		1		30					○				
	発達領域作業療法学の基礎		1		30				○					
	発達領域作業療法学の応用		2		60					○				
	老年期作業療法学		2		60				○					
	作業療法学内総合実習		1		45						○			
	老年期作業療法学演習			1		30					○			
	精神領域作業療法学演習			1		30					○			
	発達領域作業療法学演習			1		30					○			
	地域作業療法学		2		30					○				
	職業リハビリテーション学		2		30					○				
	臨床作業療法基礎実習		1		45	○								
	臨床作業療法評価実習		8		360						○			
	臨床作業療法総合実習Ⅰ		7		315							○		
	臨床作業療法総合実習Ⅱ		7		315							○		
	臨床マネジメント論		1		30								○	
	卒業研究		4		120								○	
	公衆衛生学			1		15				○				
	国際社会福祉論			2		30				○				
	摂食嚥下障害学概論			2		30			○					
	薬理・薬剤			2		30				○				
	カウンセリング			1		30				○				
	リハビリテーション栄養学			1		15				○				
	国際リハビリテーション援助論			1		30		○						
	音楽療法			1		30	○							
	ケアマネジメント			2		30			○					
国際作業療法実習			2		90					○				
レクリエーション演習			1		30			○						
絵画療法			1		30	○								
発達心理学			2		30		○							
発展的作業療法学			1		15							○		

選択必修
2単位

67
単位

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)				
	(5)専門分野の知識・理論や技能を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。		(6)リハビリテーション領域において自らの専門性と責務を自覚し、多職種と連携、協働することができる。	(7)地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。
1 年 次	RO19-D5-2-専門-1	作業療法評価学演習		英語Ⅰ 英語Ⅱ 外国語 海外研修 フランシスカ文化と言語 現代の国際社会 文化人類学 国際支援入門 地域ケア連携の基礎 地域実践アクティブラーニングⅠ ボランティア演習 ボランティア演習 大学間交流授業 国際リハビリテーション援助論
2 年 次	RO19-D5-2-専門-1	作業療法評価学演習		入門リハビリテーション英語(英語Ⅲ) 英語Ⅳ 中国語 国際支援アクティブラーニングⅠ 国際支援アクティブラーニングⅡ 地域実践アクティブラーニングⅡ 国際リハビリテーション研究 国際社会福祉論
3 年 次	RO19-D5-3-専門-1 RO19-D5-3-専門-2 RO19-D5-3-専門-3 RO19-D5-3-専門-4 RO19-D5-3-専門-5 RO19-D5-3-専門-6	日常生活活動技術学実習 作業療法学内総合実習 老年期作業療法学演習 精神領域作業療法学演習 発達領域作業療法学演習 臨床作業療法評価実習		英語Ⅴ 地域実践アクティブラーニングⅢ 地域作業療法学 職業リハビリテーション学 国際作業療法実習
4 年 次	RO19-D5-4-専門-1	発展的作業療法学	RO19-D6-4-専門-1 RO19-D6-4-専門-2	地域ケア連携演習 臨床マネジメント論

履修モデル(作業療法学科)

年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
学習テーマ	作業療法と専門職		健康と作業	人-環境-作業	人-環境-作業	臨床での作業療法実践	臨床での作業療法実践	evidence based OTの考察
臨床実習	【後半】 臨床作業療法基礎実習 1週間	作業科学と作業療法 作業療法評価学総論 基礎作業学	作業療法評価学演習 作業技術学 高次脳機能障害学	領域別の学内外の演習・実習	研究法入門 老年期作業療法評価学 日常生活活動技術学 日常生活活動技術学実習 精神領域作業療法学の応用 発達領域作業療法学の応用 地域作業療法学 職業ハビリテーション学	【後半】 臨床作業療法評価実習 8週間	臨床作業療法総合実習 I 臨床作業療法総合実習 II 各7週間	
必修科目	作業療法概論	作業療法 作業療法評価学総論 基礎作業学	作業療法評価学演習 作業技術学 高次脳機能障害学	身体領域作業療法評価学 神経系作業療法学 運動器系作業療法学の基礎 精神領域作業療法学の基礎 発達領域作業療法学の基礎 老年期作業療法学	研究法入門 老年期作業療法評価学 日常生活活動技術学 日常生活活動技術学実習 精神領域作業療法学の応用 発達領域作業療法学の応用 地域作業療法学 職業ハビリテーション学	【前半】 作業療法学内総合実習		臨床での作業療法 卒業研究
専門科目								
選択必修								
選択科目	音楽療法 絵画療法	国際ハビリテーション援助論 発達心理学	摂食嚥下障害学概論 ケアマネジメント	公衆衛生学 国際社会福祉論 薬理・薬剤 リハビリテーション栄養学 レクリエーション演習	老年期作業療法学演習 発達領域作業療法学演習			発展的作業療法学
必修科目	解剖学 運動器解剖学(動物性機能) 人体機能学 臨床医学・医療学概論 リハビリテーションの職種間連携 の基礎	神経解剖学 人体機能学(植物性機能) 運動学 I 人間発達学 病理学概論 I・II	運動学 II、運動学演習 臨床心理学 内科系医療学 整形外科系医療学 神経内科系医療学 小児科系医療学 I・II リハビリテーション医療・医学 I・II	保健医療福祉倫理学 保健医療福祉倫理学 I・II				
選択科目			国際ハビリテーション研修		国際コミュニケーション演習		地域ケア連携演習	

これらの科目は
概ね PBL チュートリアルで行います

一 建学の精神

聖隷の理念と歴史
キリスト教概論
キリスト教の歴史
キリスト教倫理

一 自然・人間・社会

哲学 文学 心理学 倫理学 女性学 生活福祉文化論
健康スポーツ論 健康スポーツ実践 スポーツ I・II 法学 日本国憲法 経済学
社会学 現代コミュニケーション論 生物学 基礎化学 基礎物理学 統計学・疫学概論
社会福祉原論 基礎演習 日本語表現法 情報処理 A・B キヤリワザイン

一 国際・地域

英語 I・II・入門ハビリテーション/英語(英語 III)・IV・V 中国語 外国語
海外研修 プラジカル文化と言語 現代の国際社会 文化人類学 国際支援入門
国際支援アクティブラーニング I・II 地域ケア連携の基礎
地域実践アクティブラーニング I~III ポラティフ論 ポラティフ演習
大学間交流授業

IV-1 履修の方法(言語聴覚学科)

1. カリキュラムの特徴と構成

言語聴覚学科では、建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に根ざし、豊かな人間性と専門性を兼ね備え、病院や施設、地域社会で言語聴覚障害のある人々を支えることのできる言語聴覚士を育成することを教育目標としています。

具体的な教育ビジョンは、以下のとおりです。

- ・臨床：障害を持つ人とそれを取り巻く医療的環境及び生活環境を理解し、科学的根拠に基づく臨床を展開し、成果を実証できる言語聴覚士
- ・教育：職能組織の一員として、社会的活動・教育的活動を通して、言語聴覚療法の普及に貢献できる言語聴覚士
- ・研究：科学的・客観的な思考を身につけ、生涯学習を实践し、言語聴覚療法の向上に貢献できる言語聴覚士

これらの教育目標とビジョンを具現化するために、初年次教育、一般教養科目、医学系・言語科学系・心理教育社会学系・工学系などの専門基礎科目、そして各種言語障害の専門科目から成るカリキュラム構築を行い、科目間の関連性を持たせつつ学年進行に沿って積み上げ、「自ら考え行動する力」を育む教育を展開します。

2. 卒業認定に必要な単位

言語聴覚学科の卒業認定に必要な単位は125単位以上（学則第39条第2項参照）と定められており、その内訳は次のとおりです（学則 別表1-6、1-9参照）。

(1) 教養基礎領域科目

教養基礎領域は、「建学の精神」・「自然・人間・社会」・「国際・地域」の3分野に分かれています。卒業までに、「建学の精神」および「自然・人間・社会」で16単位、「国際・地域」で7単位、以上に加えて教養基礎領域から3単位、合計26単位以上（必修14単位）の修得が必要です。

なおこの領域の大部分の科目は、「共通科目」となっており、看護学部、社会福祉学部の学生も履修が可能となっています。「共通科目」の中には春・秋 Semester 各々に開講される科目もありますが、学年進行により、開講されていても履修が困難な場合もあります。5分野の詳細は次のとおりです。

○建学の精神、自然・人間・社会：16単位以上（必修10単位）

・建学の精神

「聖隷の理念と歴史」（2単位）、「キリスト教概論」（2単位）は必修科目です。選択科目の「キリスト教人間論」「キリスト教の歴史」「キリスト教倫理」（各1単位）は、本学の建学の精神に関わる科目ですので、可能な限り履修することが望まれます。

・自然・人間・社会

「基礎演習」と「キャリアデザイン」（各1単位）、「統計学・疫学概論」（2単位）、「社会福祉原論」（2単位）は必修科目です。情報処理はこれからの時代に重要な科目です。可能な限り履修し、情報処理能力を養いましょう。そのほか、リハビリテーションの対象となる人間とそれを取りまく社会や自然を多面的に理解するための科目、運動や健康、社会の仕組み、法律、倫理など様々な領域があります。バランスよく選択し履修しましょう。

IV-1 履修の方法(言語聴覚学科)

○国際・地域：7単位以上（必修4単位）

英語科目である「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」「入門リハビリテーション英語（英語Ⅲ）」（各1単位）は必修科目です。さらに英語力を高めたい人は「英語Ⅳ」「英語Ⅴ」も履修することを薦めます。外国語はそのほかに、「中国語」「外国語」があります。また「ブラジル文化と言語」もあります。

国際支援の実践力を高めるための科目が設定されています。「国際支援アクティブラーニングⅠ」は国内で、「国際支援アクティブラーニングⅡ」は国外での支援活動の実践をします。国内外での支援活動を実践する前に、「国際支援入門」を受講することを推奨します。

「地域ケア連携の基礎」（1単位）は必修科目であり、看護学部、社会福祉学部、リハビリテーション学部の学部間連携授業になります。専門基礎科目である「地域ケア連携演習」とともに、それぞれの専門性を尊重し、相互理解を深め、連携・協働する力を身につける重要な科目です。

「地域実践アクティブラーニングⅠ、Ⅱ、Ⅲ」は地域活動を実践する科目です。学内の学びのみならず地域に出て実際の現場から学べるメリットは大きいです。

「大学間交流授業」（選択2単位）は、静岡県西部高等教育ネットワークによる共同授業で、「環境と人間」をテーマに9大学の先生のオムニバス講義を、他大学の学生や社会人と共に学ぶことができます。

(2) 専門領域科目

1) 専門基礎科目：41単位以上（必修41単位）

専門基礎科目は、卒業までに41単位以上（必修41単位）の修得が必要です。科目は、主に、1、2年次に配当されています。また、国際的な視野を広げるための選択科目を設けています。

2) 専門科目：58単位（必修55単位）

専門領域の科目の中の専門科目は58単位以上（必修55単位）の修得が必要です。

履修モデルに示すように Semester毎に学習テーマが設けられており、1年次から4年次まで段階的に履修していきます。また、医療技術専門職として視野を広げるための科目を3単位以上選択して履修します。これらの科目は看護学部、社会福祉学部と連携している科目も多く、他職種を理解することに役立ちます。

3. 履修の要点

以下に履修方法の概要を示しますが、詳細は学年始めの履修ガイダンスにおいて説明します。当日は、履修についての注意・説明があり、関連資料等が配布されますので、必ず出席してください。履修について不明な点がある場合や迷った場合には、教務事務センター、アドバイザーなどに相談してください。

(1) 履修科目の学年別進行

履修は、原則として、言語聴覚学科の教育課程に示した進度にそって行います。

(2) 選択科目の履修

選択科目については、可能な範囲内で学年を越えて履修することができます。教養基礎領域科目の一部は他学部との共通科目となっています。しかし、学年進行により、開講されていても受講が困難な科目もあります。履修時期については、教育課程に示した進度を参考にしてください。

IV-1 履修の方法(言語聴覚学科)

(3) 履修登録単位数の上限について

学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、学生が一年間に履修科目として登録することができる単位数は下記の通りです。

各 Semester : 25 単位

リハビリテーションの現場での実習を3年次後半から本格的に実施します。講義、学内実習で学んだ知識・技術と実践とを統合し、医療技術専門職としての資質を磨くことを目的としています。

3年次からの臨床実習の履修にあたっては、それぞれの実習科目に関連のある授業科目の単位を修得していることが前提となります。

4. 臨床実習を履修するための前提科目

臨床実習科目名	臨床実習前提科目※1
臨床言語聴覚療法評価実習	1～5 Semesterまでの専門基礎科目及び専門科目の必修科目
臨床言語聴覚療法総合実習Ⅰ	5～6 Semesterの専門基礎科目及び専門科目の必修科目
臨床言語聴覚療法総合実習Ⅱ	5～6 Semesterの専門基礎科目及び専門科目の必修科目

※「臨床言語聴覚療法総合実習Ⅰ」「臨床言語聴覚療法総合実習Ⅱ」の前提科目の一つである「言語聴覚障害学総合演習」では、医療技術専門職として必要なすべての演習を臨床実習前に行います。そのため、当該履修には、5 Semesterまでの専門基礎科目及び専門科目の必修科目の単位修得が前提条件となります。

5. 「卒業研究」等の履修のために必要な単位

「卒業研究」の履修にあたっては「言語聴覚学研究法」・「言語聴覚学研究法演習」の単位取得が、「言語聴覚障害学特別講義」の履修にあたっては、「臨床言語聴覚療法総合実習Ⅰ」「臨床言語聴覚療法総合実習Ⅱ」の単位修得が前提条件となります。

IV-2 教育課程・カリキュラムマップ・履修モデル(言語聴覚学科)

リハビリテーション学部言語聴覚学科 教育課程

区分	言語聴覚学科 授業科目	共通 科目	単位		時間 数	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な 単位数
			必修	選択		1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ	
建学の精神	聖隷の理念と歴史	★	2		30	○	○							16 単位
	キリスト教概論	★	2		30	○	○							
	キリスト教人間論	★		1	15	○	○							
	キリスト教の歴史	★		1	15			○	○					
	キリスト教倫理	★		1	15					○	○			
自然・人間・社会 教養 基礎 領域	哲学	★		2	30	○								26 単位
	文学	★		2	30	○	○							
	心理学	★		2	30	○	○							
	倫理学	★		2	30		○							
	女性学	★		2	30	○								
	生活福祉文化論	★		2	30	○	○							
	レクリエーション概論	★		2	30	○	○							
	音楽	★		1	30	○	○							
	健康スポーツ論	★		1	15	○	○							
	健康スポーツ実践	★		1	30	○	○							
	スポーツ I	★		1	30	○	○							
	スポーツ II	★		1	30	○	○							
	法学	★		2	30	○	○							
	日本国憲法	★		2	30		○							
	経済学	★		2	30		○							
	教育学	★		2	30	○	○							
	社会学	★		2	30	○	○							
	現代コミュニティ論	★		2	30	○	○							
	生物学	★		2	30	○								
	基礎化学			1	15	○								
	基礎物理学			1	15	○								
	統計学・疫学概論			2	30			○						
	社会福祉原論			2	30		○							
	基礎演習			1	30	○								
	日本語表現法	★		2	30	○	○							
	情報処理A	★		1	30	○	○							
情報処理B	★		1	30	○	○								
キャリアデザイン	★		1	15					○					
国際・地域	英語 I	★		1	30	○								7 単位
	英語 II	★		1	30		○							
	入門リハビリテーション英語(英語Ⅲ)			1	30			○						
	英語Ⅳ	★		1	30				○					
	英語Ⅴ	★		1	30					○				
	中国語	★		1	30			○	○					
	外国語	★		1	30	○	○	○	○	○	○	○	○	
	海外研修	★		1	30	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ブラジル文化と言語	★		2	30	○	○							
	現代の国際社会	★		2	30	○	○							
	文化人類学	★		2	30	○								
	国際支援入門	★		1	15	○								
	国際支援アクティブラーニングⅠ	★		1	30			○						
	国際支援アクティブラーニングⅡ	★		1	30			○						
	地域ケア連携の基礎	★		1	15	○								
	地域実践アクティブラーニングⅠ	★		1	30			○						
	地域実践アクティブラーニングⅡ	★		1	30				○					
	地域実践アクティブラーニングⅢ	★		1	30					○				
	ボランティア論	★		1	15	○								
	ボランティア演習	★		1	30		○		○		○		○	
大学間交流授業	★		2	30		○		○		○		○		

区分	言語聴覚学科 授業科目	共通 科目	単位		時間 数	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な 単位数		
			必修	選択		1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ			
専 門 基 礎 科 目	解剖学		2		30	○								41 単位		
	言語聴覚解剖学		2		30				○							
	人体機能学(動物性機能)		2		30	○										
	人体機能学(植物性機能)		1		30		○									
	病理学概論 I		1		15		○									
	臨床医学・医療学概論		1		15	○										
	内科系医療学		2		30			○								
	精神医学系医療学 I		1		15				○							
	小児科系医療学 I		1		15				○							
	リハビリテーション概論		1		15	○										
	リハビリテーション医療・医学 I		1		15				○							
	保健医療福祉論理学		1		15					○						
	耳鼻咽喉科学		2		30				○							
	臨床神経学		1		15				○							
	形成外科学		1		15					○						
	臨床歯科医学・口腔外科学		1		30					○						
	呼吸発声発語系の構造・機能・病態		1		15			○								
	聴覚系の構造・機能・病態		1		15			○								
	神経系の構造・機能・病態		1		15			○								
	生涯発達心理学		2		30			○								
	認知心理学		1		15					○						
	学習心理学		1		15					○						
	心理測定法		1		15					○						
	臨床心理学		2		30						○					
	言語学		2		30				○							
	音声学・音韻論		2		30			○								
	音声学・音響学演習		1		30					○						
	音響学		2		30					○						
	聴覚心理学		1		15					○						
	言語発達学		1		15	○										
	リハビリテーション職種間連携の基礎		1		15	○										
	地域ケア連携演習	★		1	30								○			
	国際コミュニケーション演習			1	30						○					
	国際リハビリテーション研修			1	30				○							
	専 門 領 域 専 門 科 目	言語聴覚障害学概論		2		30	○									58 単位
		言語聴覚障害学診断学		1		30				○						
		失語症学		2		30			○							
		失語・高次脳機能障害評価演習		1		30				○						
		失語症治療学		1		15					○					
		高次脳機能障害学		2		30					○					
		失語・高次脳機能障害治療演習		1		30						○				
言語発達障害学基礎実習(保育園)			1		45			○								
言語発達障害学			2		30			○								
言語発達障害学評価演習			1		30				○							
言語発達障害学治療学			2		30					○						
言語発達障害学治療演習			1		30						○					
発声発語障害学総論			1		15			○								
音声障害学			1		15					○						
小児構音障害学			1		15				○							
成人構音障害学			1		15					○						
発声発語障害学評価演習			1		30					○						
発声発語障害学治療演習			1		30						○					
流暢性障害学			1		15						○					
摂食嚥下障害学概論			2		30					○						
摂食嚥下障害学総合演習			1		30						○					
聴覚障害学			2		30				○							
聴覚機能評価演習			1		30					○						
小児聴覚障害学			2		30					○						
小児聴覚障害学演習			1		30						○					
成人聴覚障害学			1		15						○					
聴覚補償演習			1		30						○					
臨床言語聴覚療法基礎実習			1		45	○										
臨床言語聴覚療法評価実習			2		90						○					
臨床言語聴覚療法総合実習 I			6		270							○				
臨床言語聴覚療法総合実習 II			6		270							○				
地域言語聴覚療法学			1		15								○			
拡大代替コミュニケーション演習			1		30								○			
言語聴覚学研究法			1		15						○					
言語聴覚学研究法演習			1		30							○				
言語聴覚障害学総合演習			1		30							○				
公衆衛生学				1	15					○						
国際社会福祉論				2	30					○						
薬理・薬剤				2	30					○						
カウンセリング				1	30					○						
リハビリテーション栄養学				1	15					○						
国際リハビリテーション援助論			1	30			○									
音楽療法			1	30	○											
ケアマネジメント			2	30						○						
卒業研究			1	30								○				
言語聴覚障害学特別講義			1	15								○				
国際言語聴覚療法実習			2	90						○						
発展的言語聴覚療法学			1	15								○				

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)					
	(5)専門分野の知識・理論を総合的に活用し、リハビリテーション上の課題を解決する実践力を身につけている。	(6)リハビリテーション領域において自らの専門性と責務を自覚し、多職種と連携・協働することができる。	(7)地域および国際社会のニーズを捉え、リハビリテーション専門職として自己研鑽することができる。		
1 年 次	RS19-D5-2-専門-1 RS19-D5-2-専門-2 RS19-D5-2-専門-3 RS19-D5-2-専門-4	英語・聴覚・言語学演習 失語・高次脳機能障害評価演習 言語発達障害評価演習 聴覚機能評価演習	RS19-D6-1-専門-1	臨床言語聴覚療法基礎実習	英語 I 英語 II 外国語 海外研修 フランクフルト文化と言語 現代の国際社会 文化人類学 国際支援 I Ⅱ 地域実践アクティブラーニング I ボランティア演習 ボランティア演習 大学間交流授業 国際リハビリテーション援助論
2 年 次	RS19-D5-2-専門-1 RS19-D5-2-専門-2 RS19-D5-2-専門-3 RS19-D5-2-専門-4	英語・高次脳機能障害評価演習 失語・高次脳機能障害評価演習 言語発達障害評価演習 聴覚機能評価演習	RS19-D6-2-専門-1	言語発達障害学基礎演習(保育園)	英語 I 英語 II 中国語 国際支援アクティブラーニング I 国際支援アクティブラーニング II 地域実践アクティブラーニング 国際リハビリテーション援助論 国際リハビリテーション援助論
3 年 次	RS19-D5-3-専門-1 RS19-D5-3-専門-2 RS19-D5-3-専門-3 RS19-D5-3-専門-4 RS19-D5-3-専門-5 RS19-D5-3-専門-6 RS19-D5-3-専門-7 RS19-D5-3-専門-8	失語・高次脳機能障害評価演習 言語発達障害学治療演習 発声発達障害学評価演習 発声発達障害学治療演習 摂食嚥下障害学治療演習 小児聴覚障害学演習 聴覚補償演習 言語聴覚障害学総合演習	RS19-D6-3-専門-1	臨床言語聴覚療法評価実習	英語 V 地域実践アクティブラーニング III 国際言語聴覚療法実習
4 年 次	RS19-D5-4-専門-1 RS19-D5-4-専門-2	拡大代替コミュニケーション演習 言語聴覚障害学特別講義	RS19-D6-4-専門-1 RS19-D6-4-専門-2	臨床言語聴覚療法総合実習 I 臨床言語聴覚療法総合実習 II	地域実践アクティブラーニング 地域言語聴覚療法実習 発展的言語聴覚療法実習

履修モデル(言語聴覚学科)

年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
学習テーマ	障害を持つ人とそれを取り巻く医療的環境及び生活環境の理解		基礎的な医療・医学に関する各論		言語聴覚法の各論＝様々な支援方法と実践		言語聴覚法実践	
臨床実習	臨床言語聴覚療法 基礎実習	言語聴覚療法	言語発達障害学 基礎実習(実習圏)	失語・高次脳機能障 害評価演習 言語発達障害学 小児構音障害学 聴覚機能評価演習	言語聴覚障害学 失語症治療学 高次脳機能障害学 言語発達障害学 音韻学 成人構音障害学 発声発達障害学 摂食嚥下障害学 小児聴覚障害学 小児聴覚障害学 言語聴覚学研究法	臨床言語聴覚法評価 実習	臨床言語聴覚法総合実習Ⅰ 臨床言語聴覚法総合実習Ⅱ	言語聴覚療法実践 中で人を支える研究
	必修科目(講義・学内実習)	言語聴覚障害学概論	失語症学 言語発達障害学 発声発達障害学 聴覚障害学	失語・高次脳機能障 害評価演習 言語発達障害学 小児構音障害学 聴覚機能評価演習	言語聴覚障害学 失語症治療学 高次脳機能障害学 言語発達障害学 音韻学 成人構音障害学 発声発達障害学 摂食嚥下障害学 小児聴覚障害学 小児聴覚障害学 言語聴覚学研究法	先語・高次脳機能障害学 演習 言語発達障害学 発声発達障害学 摂食嚥下障害学 成人聴覚障害学 聴覚補聴学 言語聴覚学研究法 言語聴覚学総合演習	臨床言語聴覚法総合実習Ⅰ 臨床言語聴覚法総合実習Ⅱ	地域言語聴覚療法 拡大代替コミュニケーション 演習
専門科目	音楽療法	国際ハレ・リターン援助論	公衆衛生学 国際社会福祉論 薬理・薬劑 カウンセリング ハレ・リターン実務学	ケアマネジメント	国際言語聴覚法実習	卒業研究 言語聴覚学特別講義 発展的言語聴覚学		
専門領域	解剖学 人体機能学(動物性機能) 臨床医学・医学概論 ハレ・リターン概論 言語発達学 ハレ・リターン職種関連 の基礎	人体機能学(植物性機能) 病理学概論Ⅰ 呼吸器発声系の構造・機能・病態 聴覚系の構造・機能・病態 神経系の構造・機能・病態 生涯発達心理学 音声学・音韻論	内科系医療学 小児科系医療学Ⅰ ハレ・リターン医療・医学Ⅰ 耳鼻咽喉科学 臨床神経学 形成外科学 言語学	言語聴覚解剖学 精神医学系医療学Ⅰ 保健医療福祉倫理学 臨床検査学・口腔科学 認知心理学 学習心理学 心理測定法 音声学・音韻学 聴覚心理学	臨床心理学	国際コミュニケーション演習	地域ケア連携演習	

一 建学の精神

聖書の理念と歴史
キリスト教概論 キリスト教人間論
キリスト教の歴史 キリスト教倫理

一 自然・人間・社会

哲学 文学 心理学 倫理学 女性学 生活福祉文化論 レクリエーション概論 音楽
健康スポーツ論 健康スポーツ実践 スポーツⅡ 法学 日本国憲法 経済学 教育学
社会学 現代コミュニケーション論 生物學 基礎物理学 統計学・疫学概論
社会福祉原論 基礎演習 日本語表現法 情報処理A・B キリッサイ

一 国際・地域

英語Ⅰ・Ⅱ・入門ハレ・リターン英語(英語Ⅲ)・Ⅳ・Ⅴ 中国語 外国語
海外研修 プラジカ文化と言語 現代の国際社会 文化人類学 国際支援入門
国際支援アクティブラーニングⅠ・Ⅱ 地域ケア連携の基礎
地域実践アクティブラーニングⅠ～Ⅲ ハレ・リターン論 ハレ・リターン演習
大学間交流授業